

# 摩周岳・西別岳



阿寒摩周国立公園

## 摩周湖第1展望台→摩周岳頂上

「摩周第1展望台」に登山口があり、入林道を済ませたらスタート。登山道は摩周外輪山の尾根を歩いていきます。歩きはじめはだらだらとした下り坂が30分程続き、その後は緩やかな登り坂が続きます。ハンノキやダケカンバが登山道にかかっているため、頭上を注意しながら歩きましょう。ある程度登ると根釧原野や西別岳・摩周岳などの眺望を楽しむことができます。摩周湖を左手に見ながら移動していくため、少しずつ摩周湖の形が変わっていきます。通称、4.2km 地点の風衝草原までたどり着くと摩周湖は全く違った姿を見せてくれます。西別岳への分岐点を過ぎ、最後の400mは一番キツイ登り坂となり、その先の頂上では眼下に摩周湖や爆裂火口、遠くには西別岳や藻琴山、雄阿寒岳までも眺めることができます。

## 摩周岳

摩周岳は珪長質安山岩の溶岩に富む成層火山です。およそ1000年前に発生した軽石噴火によって、頂上から眺めることのできる爆裂火口が直径1.5km×1.25kmの大きさで形成されています。ハナヒリノキやオニシモツケなどの低木類、トドマツやエゾマツ、ダケカンバなどの大きな樹木も見ることができます。高山性の植物としてはクロバナハンショウヅルやチシマセンブリ、スズランなどが見どころです。頂上ではイワキンバイやイワギキョウなどが岩にしがみつくように生えています。

また、アイヌ語で「カムイヌプリ」とも呼ばれ、神の山を意味し、アイヌの人々の崇拜を集めてきた山です。

## 西別小屋→西別岳頂上

弟子屈町方面から国道243号線経由で道道885号線に入り、西別岳登山道の看板を目印に農道、林道を車で進みます。中標津町からは150号線から林道を經由して、車で進むと西別小屋があり、駐車スペースに車を停めて、歩き始めることができます。始めは緩やかな坂を登っていくと、通称「がまん坂」と呼ばれる坂に入ります。一番の難所ですが、20分ほど我慢し、後ろを振り返ると防風林で囲まれた北海道らしい広大な牧草場が広がっています。山頂からは裏摩周側の摩周岳と摩周湖が一望でき、遠くには雄阿寒岳や雌阿寒岳、知床の山々や、国後島までも見ることができる大パノラマが広がります。西別岳から摩周岳を經由して摩周第1展望台まで縦走するのもまた気持ちがいいです。

## 西別岳

西別岳が人気の理由は、360度の眺望だけではありません。標高800mほどと比較的低い山ながら、標高1000mの藻琴山と比較しても高山植物が多く、西別岳の特殊性をうかがうことができます。登山道沿いには第一から第三までお花畑があり、春にはチシマザクラやユキワリコザクラ、夏にはエゾツツジやヒオウギアヤメ、秋にはトウゲブキやエゾオヤマリンドウなど登山者の目を楽しませてくれる色とりどりのお花が咲き誇ります。

そうしたことから、環境省では過去に荒廃した植生の回復事業などを行っています。また、地元山岳会などの尽力により、外来種の駆除活動や登山道の整備などが行われています。

## 摩周岳・西別岳で見られる花（一部）

川湯ビジターセンター



開館時間

4月～10月 8:00～17:00

11月～3月 9:00～16:00

休館日

毎週水曜日(7月第3週～8月31日は無休、水曜祝日の際は翌日)

年未年始(12月29日～1月3日)

入館料 無料

088-3465

北海道川上郡弟子屈町川湯温泉2-2-6

TEL 015-483-4100

FAX 015-483-4111

URL <https://www.kawayu-eco-museum.com/>

製作 環境省



チシマザクラ  
(4～5月)



ゴゼンタチバナ  
(6～7月)



エゾオヤマリンドウ  
(6～7月)



エゾツツジ  
(6～8月)



ミヤマオダマキ  
(6～8月)



ウメバチソウ  
(8～9月)



ユキワリコザクラ  
(5～6月)



コケモモ  
(6～7月)



ハクサンチドリ  
(6～7月)



チシマフウロ  
(6～8月)



ヨツバシオガマ  
(6～8月)



ヤナギタンポポ  
(8～9月)



ガンコウラン  
(5～7月)



アヤメ  
(6～7月)



ウツボグサ  
(6～8月)



オトギリソウ  
(6～8月)



ホザキナナカマド  
(7～8月)



エゾトリカブト  
(8～9月)